

ピアスタッフが大切にしたいこと

PEER

協会

ピアスタッフの価値と役割を考える研究会

2023年12月5日作成

2024年5月13日改訂

日本ピアスタッフ協会 2024年9月5日承認

前文：前提となる私たちの思い

「ピアスタッフが大切にしたいこと」は、私たちピアスタッフが、活動するうえで大切にしたい「こころの軸」（考え方の基盤）をまとめたものです。同時にこれは、共に歩む仲間たちと交わす、私たちの約束でもあります。

私たちはピアスタッフを、「自身の立場や経験を活かし、ピアサポートの感覚を大切にして、同様の立場や経験のある仲間のリカバリー^{*1}に寄与する人」^{*2}と考えています。そして、自らの経験から、すべての人にリカバリーは現実起こるということ、とどまることのないリカバリーへの歩みがあることを信念とし、自分らしく、仲間のリカバリーを誘い、応援する伴走者でありたいと願っています。

ピアスタッフが力を発揮するためには、拠り所となる「軸」が必要であると私たちは考えます。ピアスタッフとして真摯に働くほどに、多くの喜びを経験する一方、困りごとや葛藤、壁にぶつかったり、道に迷ったりすることがきっとあります。そんな時に、自分を見失わず、原点に立ち戻れるよう、ピアスタッフとして大切にすべき価値を明文化することが重要ではないかと思ひ至りました。

こうして「ピアスタッフが大切にしたいこと」12項目がまとめられました。このなかで「私たち」は、ピアスタッフである「私たち」を意味します。「あなた」は、サービスの利用者である仲間であり、共にリカバリーの道を歩む仲間を意味します。



（前提となる立脚点）

私たちは少なからず、病気や障害等によって被差別体験、尊厳や力を奪われた経験などを有しているという立場を立脚点としています。このことは、障害者の権利に関する条約（以下、障害者権利条約）にある「障害者の権利と尊厳を保護し、促進する」^{*3}ことを基盤とし、サービス利用者として仲間を対象化するのではなく、常に「一緒に」、「互いに」、「共に」、あることを大切にし、私たちも「共に」リカバリーする仲間（ピア）であり、「相互に応援」するところにいます。

（基盤とする考え方）

私たちは、病気や障害等、大きな困難を経験していることで、支援の受け手としてのみ規定されがちでした。これからは「客体」ではなく、共に「権利の主体」であることを基盤とします。つまり、すべての人が支援を必要とすることがあり、すべての人が誰かの力になることができるということのうえで活動します。

（創り出される心地よい「場」）

「ピアスタッフとして大切にしたいこと」を実践することで、心地よい「場」が創り出され、「ピアサポートの感覚」を味わうことができます。ピアサポートによって創り出される「場」は、一人ひとりのエンパワメントやリカバリーのきっかけとなります。

【用語の定義】

ピアスタッフ（ピアサポーターを含む）：自身の経験や立場を活かして、ピアサポートの感覚を大切にして、同様の経験や立場の仲間のリカバリーに寄与する人。事業所等と雇用契約を締結し、報酬を得ている者をピアスタッフ、雇用契約等は締結せずに活動している者をピアサポーターと呼ばれている。（例：無償でピアサポートグループのファシリテーターを行なう、依頼を受けて講演会等を行うなど）

ピアサポート：同様の経験や立場のある対等な仲間同士の支え合いの営みのすべて

ピアスタッフが大切にしたいこと

- 1 (存在の肯定)
私たちは、あなたのありのままを尊重します。
- 2 (共にいること)
私たちは、あなたと共にいます。
- 3 (対等性・相互性)
私たちは、あなたとの対等な関係を大切にしています。
- 4 (当事者性)
私たちは、あなたと私たちの出発点である、困難な経験を大切にしています。
- 5 (経験の開示・共有・蓄積)
私たちは、あなたと人生の経験を分かち合うことを大切にしています。
- 6 (リカバリー)
私たちは、あなたのリカバリーを信じ、共に歩みます。
- 7 (ストレングス視点^{*4})
私たちは、あなたがもっている力や可能性を信じます。
- 8 (尊厳の保持・権利擁護)
私たちは、あなたの権利と尊厳を支持し、守り、大切に、それらが奪われたり侵されそうになった時に、共に行動を起こしていきます。
- 9 (希望・創造性に満ちた未来)
私たちは、あなたと共に希望を見出し、希望を持つことを大切にします。
- 10 (学び合い)
私たちは、あなたとの出会いを大切に、お互いの生き方から学び続けます。
- 11 (社会の変革)
私たちは、自らの経験をもって、あなたと私たちを取り巻く社会*を変革できる存在であることを信じます。 *社会には、人、組織、サービス、地域、制度等を含みます。
- 12 (地域社会・多様性と共生)
私たちは、多様性を認め合い、誰もが自分らしく生きる地域・社会を目指します。

【注釈】

- ^{*1} リカバリーとは、一人一人個人のものであるという前提のもと、定義はないとも言われていますが、近年さまざまな定義が示されています。本来は当事者主体の言葉でしたが、専門職によって解説されるなかで、パーソナルリカバリーのほかに、臨床的リカバリーと社会的リカバリーに整理されています。ここでは、本来のリカバリーの意であるパーソナルリカバリーを意味します。SAMHSA（米国の物質依存精神保健部局）では、リカバリーを「人々が生活や仕事、学ぶこと、そして地域社会に参加できるようになる過程であり、ある個人にとってはリカバリーとは障害があっても充実し生産的な生活を送ることができる能力であり、他の個人にとっては症状の減少や緩和である」と定義しています。
- ^{*2} 本定義は、相川の定義（相川章子「ピアサポート / ピアスタッフの歴史的展開と発展可能性」, 精神障害とリハビリテーション, 26(2), 126-133, 2022）に、加藤の「ピアサポートの感覚を大切に」（加藤伸輔「ピアサポートの感覚を大切に」, 「ピアスタッフが働くためのヒント」 星和書店, p14-18, 2019,）を加え、改編したものです。
- ^{*3} 障害者権利条約 第一条 目的：この条約は、すべての障害者によるあらゆる人権及び基本的自由の完全かつ平等な享有を促進し、保護し、及び確保すること並びに障害者の固有の尊厳の尊重を促進することを目的とします。障害者には、長期的な身体的、精神的、知的又は感覚的な機能障害であって、様々な障壁との相互作用により他の者との平等を基礎として社会に完全かつ効果的に参加することを妨げ得るものを有する者を含みます。
- ^{*4} スtrenグス視点とは、個人の障害等やできないこと、欠点に着目するのではなく、その潜在能力（意欲、才能、技能、好み、性格の良い部分、願望）や、環境（資産、人間関係、社会資源等）などに着目し、尊重し、その力を生かした視点を言います。

